

震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部交流会に参加して

令和5年1月23日(月)、東日本大震災・原子力災害伝承館で開催された語り部交流会に、本校舎・遠野校舎の生徒会長2名が参加してきました。



各校の発表の前に、NPO法人富岡町3・11を語る会の方にご講話いただきました。

「体験したかどうかではなく、
自分はどうかを自分で語る事が大切」

本校は、以下の内容で発表してきました。

- ①令和3年度、遠野校舎での取り組み
いわき震災伝承みらい館研修やわが町新聞について
- ②令和4年度、本校舎での取り組み
いわき震災伝承みらい館研修や
東日本大震災・原子力災害伝承館研修の振り返り学習について
- ③まとめ
文化祭でのグループディスカッションについて



2人とも、とても落ち着いた様子で、
車内での読み合わせ練習の成果がしっかり発揮できたと思います。



また、他校の発表を聞いて、震災は津波や原発だけではなく、
お城の石垣や空港、食べ物など様々なところにも影響を与えたことを再確認しました。

NPO法人富岡町3・11を語る会の方が、講評の中で最後におっしゃっていました。
「安心と安全は違う。安心するためには、安全なものを増やしていくしかない」

今回の語り部交流会は、
自分の言葉で語り、そして、その活動内容を他校の生徒と共有できた2人にとって
きっと有意義なものとなったでしょう。

大役、お疲れ様でした。